



# 木曾岬小学校だより



令和5(2023)年度 学力・学習状況調査結果 第2弾：児童質問紙及び総括

2023年10月18日

## 児童質問紙

※生活習慣や学習習慣に関するアンケート調査です。

【国や県の調査結果と±5ポイント以上の違いが見られた設問】◎：+5 △：-5

- ◎学習の中でICT機器を週3回以上使っている。
- ◎今住んでいる地域の行事に参加している。
- ◎算数の勉強は好き。
- ◎将来、積極的に英語を使うような生活をしていたり、職業に就いたりしたい。
- ◎算数の解答時間は十分であった。
- ◎国語の解答時間は十分であった。
- ◎算数の問題では、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題で最後まで解答を書こうと努力した。



- △自分にはよいところがある。
- △将来の夢や目標を持っている。
- △学校に行くのは楽しい。
- △普段の生活の中で、幸せな気持ちになる。
- △家で自分で計画を立てて勉強している。
- △学校の授業時間以外で、普段(月～金)1日当たり1時間以上勉強している。【全くしないについても△】
- △学校が休みの日に、1日当たり2時間以上勉強している。
- △学校の授業時間以外で、普段(月～金)1日あたり30分以上読書する。【全くしないについても△】
- △昼休みや放課後または学校が休みの日に、本を読んだり、借りたりする目的で学校の図書室や公立図書館へ行く。
- △読書は好き
- △地域や社会をよくするために何かしてみたい。
- △日本や住んでいる地域のことを、外国の人にもっと知ってもらいたい。
- △5年生までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた。
- △総合的な学習の時間、自分で課題を立てて情報を集め整理して調べたことを発表する学習に取り組んだ。
- △学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていた。
- △学級活動における話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる。
- △道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる。
- △国語の勉強は好き。国語の勉強は大切。国語の授業で学習したことは、将来、社会に出た時に役に立つと思う。
- △国語の授業の内容はよく分かる。言葉には、相手との好ましい関係をつくる働きがあることを学んでいる。
- △国語の授業で、立場や考えの違いを意識して話し合い、自分とは違う意見を生かして自分の考えをまとめている。
- △国語の授業で、物語を読む時に、登場人物の性格や特徴、物語全体を具体的にイメージし、どのような表現で描かれているのかに着目している。
- △算数の授業で学習したことは、将来、社会に出た時に役に立つと思う。
- △英語の勉強は好き。
- △家庭学習の課題として、週1回以上PCなどのICT機器を使って音声を聞いたり話したりする練習をしている。



## 児童質問紙から見えてきたこと・・・

- 概ね、基本的な生活習慣が身につけてきています。
- ICT機器の活用については、約束を守り、多くの場面で利活用しており、その効果を感じています。
- 算数の学習に向かう姿勢は前向きで、意欲的です。
- 将来、積極的に英語を使うような生活をしていたり職業に就いたりしたいと国際的な感覚の子が多いようです。

△自分に対する評価には厳しく、自尊感情が低い傾向にありました。

△国語の授業に対する意欲は高いとは言えません。したがって、読書に対する関心も高いとは言えません。

児童質問紙は、基本的な生活習慣や学習習慣に加え、時代の変化に伴う課題に対して、その傾向を把握するために実施されることから、例年通りの設問に加えて新たな設問が示されます。全国的な傾向と本校の傾向を比較する中で、基本的な生活習慣や ICT 機器の利活用の定着が見られる一方、自尊感情、国語の学習、家庭学習や読書習慣等に課題が見られました。

基本的な生活習慣は概ね身に付いていますので、健康的な心身の成長を期待しています。また、本町では、ICT 機器の先進的な導入により、子どもたちの ICT 機器の利活用が進んでいることは、これからの時代を生きていくうえでとても心強いことと感じています。但し、英語での利活用の促進には課題がありました。この点については検討していきます。一方で、国語の学習、家庭学習や読書といった点においては、課題が見られます。

これらは、6年生だけではなく、各学年でも共通している点があるように感じています。そこで、きそリズムなど従来の取組に加えて、昨年度から取り組みを始めた「夢に向かってがんばる木曾岬っ子」応援キャンペーンは、こうした課題を克服していくための一手となるのでは…と感じています。将来への夢や目標を持つことで、今、自分は何をすべきかを意識するようになります。学習に向かう姿勢が高まり、人の話を聴いたり、読書したりすることに繋がります。さらに、周りの大人も、その夢

や目標を共有することで、的確なアドバイスを考え、家庭での会話にも繋がるのではないかと、学びに向かう力を支えることに繋がるのではないかと考えております。

今年度は、加えて、コグトレや読み聞かせをはじめとする小学生の読書支援に取り組んでいます。

次に、注目している設問項目を紹介します。読書習慣は、子どもたちの学びの向上に関わるポイントとなる項目と考えております。

(20) 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(電子書籍の読書も含みます。教科書や参考書、漫画や雑誌は除きます)。

- 1 2時間以上
- 2 1時間以上、2時間より少ない
- 3 30分以上、1時間より少ない
- 4 10分以上、30分より少ない
- 5 10分より少ない
- 6 全くしない



(47) 国語の授業で、言葉には、相手との好ましい関係をつくる働きがあることについて学んでいる…… 1 — 2 — 3 — 4

(48) 国語の授業で、立場や考えの違いを意識して話し合い、自分とは違う意見を生かして自分の考えをまとめている…………… 1 — 2 — 3 — 4



(49) 国語の授業で、書いた文章の感想や意見を学級の友達と伝え合い、自分の文章のよいところを見付けている…………… 1 — 2 — 3 — 4

(50) 国語の授業で、物語を読むときに、登場人物の性格や特徴、物語全体を具体的にイメージし、どのような表現で描かれているのかに着目している…………… 1 — 2 — 3 — 4



# 総括

○無回答率は低く、問題を解こうと前向きに取り組むことができました。  
○学力・学習状況調査に、一人ひとりが一生懸命に取り組みました。これまでに実施された学力に関する調査を踏まえて確実に力を身に付けつつあります。

【国語】今年度、児童質問紙では、国語に関する質問が昨年度よりも増えました。内容を読み取る力、条件に合わせて文を書くこと、自分の考えを持ち、文章で表現する力など全体的に力をつけていきたいと考えます。現在も取り組んできていることですが、まずは、読書習慣を身に付けて、文章を読むことへの抵抗をなくしていききたいと思います。朝読書、図書まつり、読書登山など取組も大切にしながら、読書活動の推進に努めていききたいと思います。ぜひ、P T A：親子読書の取組を積極的に取り組んでいただければ・・・と思います。

【算数】基本的な四則計算はできています。今年度、児童質問紙にもありましたが、問題をじっくり読んで、数や式を説明する力が求められています。正しい答えを導くために、文章題などについては、文意を最後まで確認するよう指導の徹底に努めていききたいと思います。

忘れていたり苦手なところは個々に異なりますので、自分にとって課題となる内容について定期的にICT機器を活用して復習する機会を持つなど工夫に努めていききたいと思います。



今年度、解答時間について十分であったと回答している割合は高いのですが、2教科の結果の考察を通じて、問題の解決力を確実に身に付けていく必要性を感じました。

2年目を迎える「夢に向かってがんばる木曾岬っ子応援キャンペーン」の取組と連動し、一人ひとりが自分の将来の夢や目標に向かってがんばっていくには、多くの人や本との出会いを通じて、経験を積み重ねていくことの重要性を対話を通じて伝えていききたいと思います。

児童質問紙から見られた、『将来、積極的に英語を使うような生活をしていたり職業に就いたりしたい』と考える子が多いという点は、ある意味で重要だと感じています。本校に通う外国につながるのある子たちとともに、国際的な感覚を身に付けて、将来の自分を考えている姿も大切にしていきたいと思います。

地球温暖化（沸騰化）をいかに食い止めるのかなど、SDGsの取組への関心も高め、国際人として成長して行ってほしいな…とも思います。

この調査結果から、多くの体験や読書をしている人（学習習慣が身に付いている人）ほど、学力が身につけているという傾向は確認できます。子どもたちの「学びに向かう力」を育み、読書活動の推進を図ることで、学力向上に繋げていききたいと思います。



pixta.jp - 76430821



昨年度もお伝えしましたが、令和元年度より、新しい学習指導要領が実施され、この2年間で、その傾向がいくつか設問に出されるようになってきていると感じています。学習評価の観点知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度です。設問としても、基礎的な事項を基に、情報を整理して思考・判断して、他者（出題者）が意図することを推察し、自分の考えをまとめて表現する力を問うようになってきています。

したがって、解答する力として、文章や資料を適切に読み取り、論理的に整理してまとめるなど、根拠となる事柄を基に、自分の思考力を駆使し適切な判断で自分の意見をまとめられるような力を身に付けること、粘り強く学びに向かう意欲が求められています。

また、ICTに関わり、プログラミング的思考力に関する設問が算数で出題されてきています。そして、学習状況調査においては、これまで通り、児童の基本的な生活習慣や学習習慣に加えて、ICT教育との関わり、さらには国語力の向上な



ど質問が増えてきました。

基礎・基本となる知識・技能の定着を図ることが重要ですが、定着という点では、何度も繰り返し学び直しできるICT機器の有効な利活用に努めたいと思います。また、学びの意欲の向上という点も重要であると考えます。いずれも生活習慣や学習習慣と密接なつながりがあります。各学年の発達段階に応じた学習の系統性を踏まえ、家庭との連携を図りつつ、教育活動の充実、授業改善に取り組んでいきたいと考えています。



学校での教育活動を通じて、原因と結果など、情報と情報との関係について整理する力、文の内容を読み取り、原因と結果の関係を結び付けて捉える力など、多数の情報を関係付けて整理してまとめるといった学習の機会を大切にしていきたいと考えます。そして、文章を読み要約して記述する力を身に付け、条件に合わせて文を書く、まとめる力、さらには、回答に必要な条件を踏まえて文章にまとめたり、発表したりする力へ高めていき

たいと考えます。(文章からだけでなく、自分の考えを加えたり、聞かれていることを取りこぼさず、要約してまとめたりする力の育成)



そのためにも、文章を読んで、内容の中心となる語や文を読み取る力、文章と図表を結び付けるなどして、必要な情報を取捨選択、整理、再構築する力を身に付けられるような授業の工夫改善に努めていきたいと思ひます。



細かい字で、多くの内容を詰め込んだ文章となり大変読みづらい学校だよりとなりましたことをお許しください。

— 以下余白 —